

2025年度大学院入試問題（2024年9月11日実施）

言語学 研究科 言語学 専攻（博士前期）

試験科目：（第二外国語 英語） 試験時間：（30分）

Write a short essay about the impact that learning a second language might have on the learner's identity.

Learning a second language often reshapes a learner's identity in subtle yet profound ways. As individuals acquire new vocabulary, expressions, and cultural knowledge, they gain access to perspectives that may differ significantly from those rooted in their first language. This expanded worldview can lead learners to question long-held assumptions and to better understand the cultural relativity of norms, values, and communication styles. In many cases, the new language becomes a gateway to alternative ways of thinking, enabling learners to express emotions or ideas that may feel less accessible in their native tongue.

Moreover, adopting a second language can create a sense of dual belonging. Learners might feel connected both to their original culture and to the communities associated with the new language. Such linguistic separation often leads to a dual persona where learners report feeling and behaving differently when speaking their second languages. The new languages can allow for the expression of new or different personality traits or the expression of ideas with less inhibition than in the first language. This duality can enrich one's sense of self but can also introduce moments of ambiguity, or even conflict, as individuals navigate between linguistic and cultural expectations.

Ultimately, learning a second language not only improves communication but also fosters personal growth. It encourages empathy, adaptability, and self-reflection, allowing learners to become more aware of who they are and who they can become within an increasingly interconnected world.

2025年度大学院入試問題（2024年9月11日実施）

言語科学 研究科 言語学 専攻（博士前期）

試験科目：（第2外国語 フランス語） 試験時間：（30分）

解答

1. 次の記述のうち、文章の内容に即したのものには○を、そうでないものには×をカッコ内書き込みなさい。

- (○) sentinelle は男性をさす場合でも女性名詞である。
- (×) Madame le Directeur のような言い方は最近一般化している。
- (×) 無生物を表す名詞の場合、男性名詞は常に大きいものを指す。
- (×) インドヨーロッパ語における名詞の性が精霊信仰（アニミズム）に由来することは証明されている。
- (○) 名詞の性はその名詞が指すものの見方に影響を与えることを示す研究がある。

2. 文中の (ア)~(オ) に入れるのもっとも適した語句を、(a)~(d) からそれぞれ選び、○で囲みなさい。

- | | | | | |
|-----|-----------------|---------------|-----------------|----------------|
| (ア) | (a) dont | (b) que | (c) qui | (d) lesquels |
| (イ) | (a) afin | (b) à | (c) pour | (d) par |
| (ウ) | (a) ce | (b) cette | (c) celui | (d) cet |
| (エ) | (a) jamais | (b) peu | (c) qu' | (d) moins |
| (オ) | (a) laquelle | (b) où | (c) qui | (d) que |

3. 文中で□に囲まれている単語は何を指していますか。文中から抜き出して書きなさい。

(a) y (1.8) : **des métiers prestigieux**

(b) l' (1.18) : **le genre**

(c) les (1.20) : **les humains**

(d) leur (1.32) : **des locuteurs de l'espagnol**

(e) lui (1.33) : **un pont**

4. 文中の下線部を和訳しなさい。(1.25-28)

(訳例)

--

試験科目：（ 専門科目 言語学・必答 ） 試験時間：（ 120分 ）

【B】主題役割（thematic role）について知るところを、具体的な例を挙げながら述べなさい。

【解答欄】

述語の項が担う意味上の役割のことを主題役割という。主題役割は、意味役割、 θ 役割などとも呼ばれる。

どのような主題役割を想定するかは研究者によって異なるが、代表的なものとしては以下が挙げられる。

- (1) 動作主：意志をもって行為を開始するもの
例：Jack broke the egg における Jack
- (2) 被動者：行為の影響を受けるもの
例：Jack broke the egg における the egg
- (3) 主題：行為によって移動させられるもの、あるいはある場所にあるもの
例：Betty threw the rock の the rock
- (4) 経験者：感情・感覚などの心理的な経験をすること
例：Jack fears snakes の Jack
- (5) 受益者：行為によって利益を受けるもの
例：Jack cooked Betty lunch の Betty
- (6) 起点：移動の出発点となるもの
例：Jack came back from school の from school
- (7) 着点：移動の到達点となるもの
例：Betty went to the park の to the park
- (8) 場所：何かがある、あるいは何かが起こる場所
例：Betty is in Osaka の in Osaka
- (9) 道具：行為を行うために用いられるもの
例：Jack cut the bread with a knife の with a knife
- (10) 刺激：経験者の感情・感覚などに影響を与えるもの
例：Betty loves baseball の baseball

被動者と主題を区別せず、両者をまとめて主題と呼ぶこともある。

主題、起点、着点の定義の中で用いられている「移動」という概念には、文字通りの、物理的な移動だけでなく、「所有の変化」のような比喩的な意味での移動も含まれる。したがって、The inheritance went from Jack to Betty では、the inheritance、from Jack、to Betty の主題役割は、それぞれ、主題、起点、着点である。

生成文法の統率・束縛理論においては、主題役割と項の関係を規定する、 θ 基準と呼ばれる条件 ((11)) が提案された。

試験科目：（ 専門科目 言語学・必答 ） 試験時間：（ 120分 ）

【解答欄】

(11) θ 基準

それぞれの項は1つ、そしてただ1つの主題役割を担い、それぞれの主題役割は1つ、そしてただ1つの項に付与される。

要するに、 θ 基準とは、項と主題役割の間に一対一の対応関係があることを要求する条件である。たとえば、**Betty killed* は、*killed* が持つ2つの主題役割（動作主と被動者）のうち、1つ（被動者）が項に付与されていないために、 θ 基準(11)の後半部分に違反している。また、**Jack laughed Betty* は、*laughed* が持つ主題役割が1つ（動作主）だけであるため、*Betty* が主題役割を付与されず、 θ 基準(11)の前半部分に違反している。

試験科目：（ 専門科目 言語学・必答 ） 試験時間：（ 120分 ）

【C】 次の2つの問題に答えなさい：

1. IPA(国際音声字母)の子音の表はどのような原則に基づいて組み立てられているか説明せよ.
2. 「音位転倒(metathesis)」という現象について具体例を挙げ、音韻規則を用いて説明しなさい.

【解答欄】

1. 諸言語の話し言葉における分節音を中心に、必要があれば様々な補助的な記号を用いて音声を記号表現として表すことを目的としている。子音の主表は、左から右に進むにつれて、前方の調音点（唇）から後方の調音点（声門）へと配列されている。また上から下に進むにつれて、閉鎖の程度が強いもの（破裂音）から弱いもの（接近音）へと配列されている。また一つのセルの中に二つの音声が進んで入っているときは左側が無声音、右側が有声音である。
2. 日本語の具体例として「新た（あらた）」→「新しい（あたらしい）」や「山茶花（さんざか）」→「さざんか」が挙げられる。この場合はモーラごとに音位が入れ替わっている。モーラを μ で表し、前後の環境に特に指定はないとすると以下のように規則化できる：

$$\mu_1\mu_2 \rightarrow \mu_2\mu_1 / _$$

試験科目：（ 専門科目 言語学・必答 ） 試験時間：（ 120分 ）

【D】日本語の「自分」（例：有美が自分をほめた）について知るところを、具体的な例文を挙げながら述べなさい。

【解答欄】

日本語の「自分」は再帰代名詞であると言われることが多い。そこで以下では、日本語の「自分」が英語の再帰代名詞と異なっている点と類似している点を述べる。

まず、「自分」は、英語の再帰代名詞と次の①～⑤に挙げるような点で異なっている（以下では、2つの名詞句が同一の指示を持つことを、それらに同一の指標を付与することで示す）。

①英語の再帰代名詞の先行詞は有生でも無生でもよいが（(1)）、「自分」の先行詞は有生でなければならない（(2)）。

(1) a. John_i hates himself_i.

b. History_i repeats itself_i.

(2) a. 太郎_iが自分_iの部屋に入って行った。

b. *ギター_iが自分_iのケースの上に落ちた。

②英語の再帰代名詞は所有格の位置に生起できないが（(3)）、「自分」は生起できる（(2a)）。

(3) *John_i likes himself_i's brother.

③英語の再帰代名詞は修飾できないが（(4)）、「自分」は修飾できる（(5)）。

(4) *John_i discovered new himself_i.

(5) 太郎_iは新しい自分_iを発見した。

④英語の再帰代名詞は先行詞と同じ節の中にななければならないが（(6)）、「自分」にはそのような制限がない（(7)）。

(6) John_i thinks that Bill_j likes himself_{*i/j}.

(7) 太郎_iが花子_jが自分_{i/j}を過大評価していると思っている。

⑤英語の再帰代名詞には主語指向性がないが（(8)）、「自分」には主語指向性がある（(9)）。

(8) John_i told Bill_j about himself_{i/j}.

試験科目：（ 専門科目 言語学・必答 ） 試験時間：（ 120分 ）

【解答欄】

(9) 太郎_iが次郎_jに自分_{i/*j}のことを話した。

次に、「自分」が英語の再帰代名詞と類似している点としては、「先行詞に c 統御されなければならない」という点を挙げることができる。これは次の(10)(11)によって例示される。

(10) *John_i's father likes himself_i.

(11) *花子が太郎_iが書いた論文を自分_iの部屋で読んでいる。

【B】 次の2つの問題に答えなさい：

1. 人間が音源の位置を推定するのはどのようなメカニズムによるのか知るところを述べよ。
2. 放出音(ejective)の産出メカニズムについて略図を用いてできるだけ詳しく説明せよ。

【解答欄】

1. 水平方向の音源定位は、主に音源の位置によって左右の耳への入力に生じるわずかな時間差と音圧の差を用いて行われる。上下および前後方向の音源定位は、左右の耳の区別なく、周波数成分の相対強度や、耳介による変化の程度が用いられる。
2. 放出音は口腔内の調音点①と声門の二カ所で閉鎖を作って空気を閉じこめ、声門を持ち上げて②口腔内の気圧を上げる。次に調音点での閉鎖を開放③して外向きの気流を作り出して発音する。

